

(8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 11 月）	今回（平成 18 年 2 月）	
個人消費	持ち直しの動きがみられる	緩やかに回復している	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	
雇用情勢	改善	着実に改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に推移している。

化学は、合成ゴムなどが好調であるなど引き続き高水準で推移している。鉄鋼は、海外から汎用品が多く輸入されているために粗鋼関係が減少しているものの、自動車用をはじめとした高付加価値品は引き続き好調であり、おおむね横ばいで推移している。輸送機械は、輸出处向けが引き続き堅調に推移しているとともに、新型車の生産も好調なことから、増加している。一般機械は、海外向けの印刷機械や自動車用の金型が好調に推移していることから増加している。電子部品・デバイスは、固定コンデンサや液晶素子が高水準で推移しているものの、半導体集積回路が低調に推移しているため、減少している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年12月の中国は速報値。

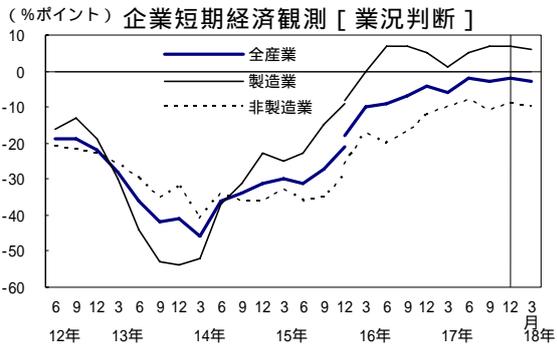
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
化学	17.6	2.3	1.1	1.8	2.0
鉄鋼	12.1	3.0	2.2	2.4	1.1
輸送機械	12.0	8.0	4.5	5.3	18.9
一般機械	10.4	2.8	9.2	1.3	25.8
電子部品・デバイス	7.6	11.4	8.5	9.3	-
鉱工業	100.0	0.4	0.1	1.2	1.2

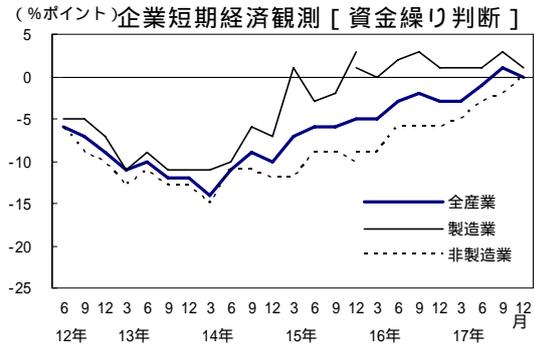
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

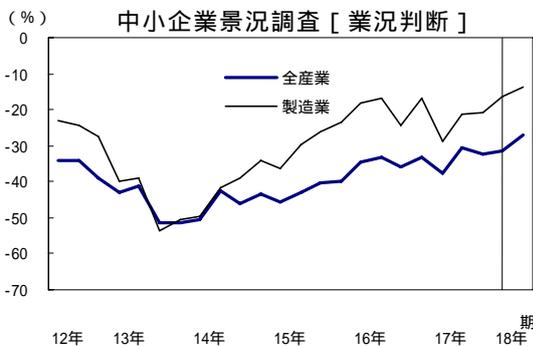
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年3月は予測。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

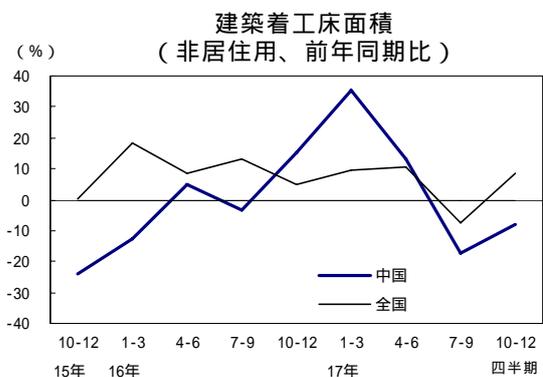
「自動車関連の業務下請が絶好調で、受注をさばききれない状態がずっと継続している(輸送用機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	14.0	11.8(4.8)
製造業	13.5	22.1(6.7)
非製造業	14.7	4.2(1.2)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

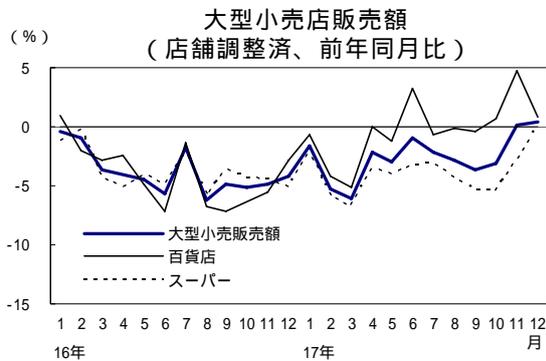
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、中旬以降気温が低下したことにより、秋物衣料品が好調に推移したことや、ブランド品をはじめ高額商品にも動きがみられたことなどにより、全体でも前年を上回った。11月は、衣料品をはじめ全ての品目が前年を上回ったことにより、全体でも前年を上回った。12月は、積雪のために客足に影響がみられたものの、コートを中心とした重衣料やマフラー、手袋などの身の回り品が引き続き好調であったため、全体では前年を上回った。なお、日本百貨店協会によると、中国地区の1月の売上高は、前年同月比で1.1%増となっている。

スーパーは、寒波の影響により衣料品等に動きがみられたものの、飲食料品や家庭用品などが低調に推移したことにより、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「冬物クリアランスのため、中旬までは衣料品・雑貨・食料品など好調に推移した。しかし中旬以降ミセスを中心とした衣料品が失速し、食品も大苦戦を強いられている。寒波のため冬物需要がかなり先行した(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

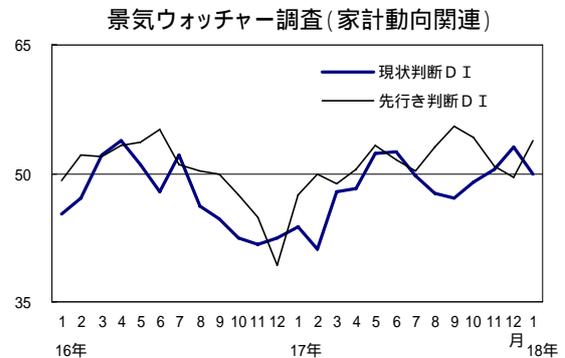
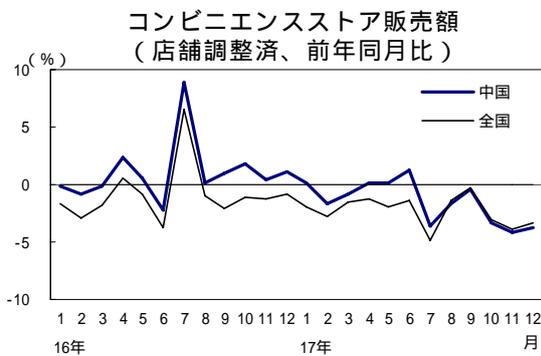


(前年同期比、%)

	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	4.2	2.0	2.8	0.6
百貨店	3.2	0.6	0.4	1.9
スーパー	4.9	3.6	4.2	2.3
コンビニ	0.8	0.5	1.9	3.8
景気ウォッチャー	44.3	51.0	48.2	50.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

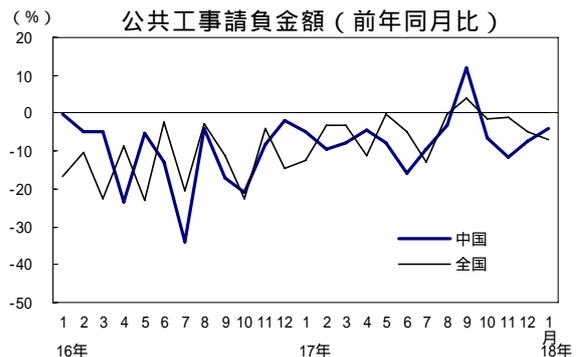
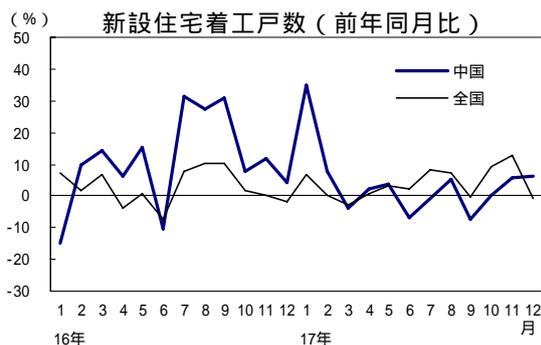
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

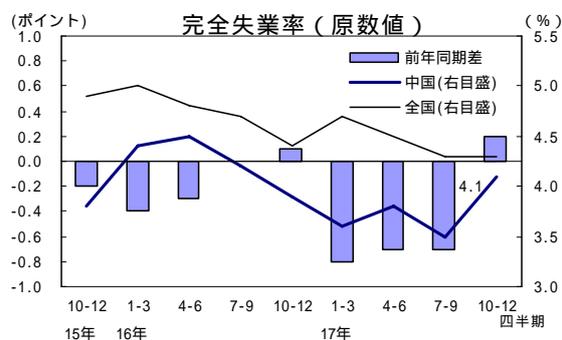
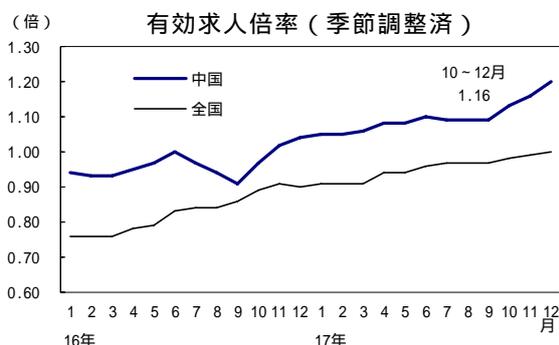


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連 (現状)]

「地場ではその業界最大手の人事責任者から経験、スキル相応の人であれば、弊社のどの部門を希望してもよいので人材を紹介して欲しい、と言われた (民間職業紹介機関)」など「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

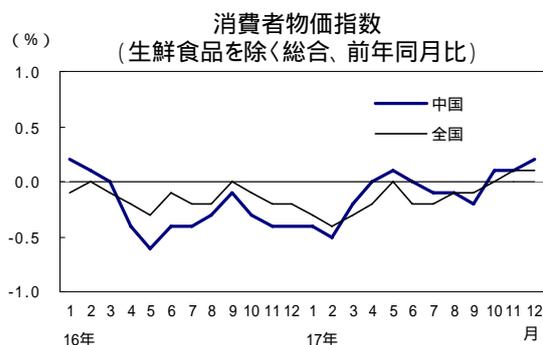
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

企業倒産は、1月に件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	18年1月
倒産件数	133	150	117	153	61
(前年比)	5.0	8.5	23.5	9.3	35.6
負債総額	418	377	423	626	575
(前年比)	25.1	9.7	4.9	94.2	178.8



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・バブル崩壊以降広告をストップしていた企業の回帰がみられる (広告代理店)

<先行き>

・まだ夜に飲みに出かける客は少ないようだが、これ以上悪くなるような雰囲気は客からは感じられない。このまま横ばい状態が続く (タクシー運転手)

景気ウォッチャー調査 (合計)

